佐伯山の会

まど

322号

Belay

to make someone

who is climbing a mountain etc safe

by attaching a rope

to them and to a rock

2016

June

6月

目 次 contents

◆ **山行案内**

7 月例会山行　周防大島★嵩山～文殊山　縦走　3

8 月例会山行　聖岳～赤石岳～東岳　3

7 月例会山行　白山（御前峰）　4

◆ **山行報告**

・船通山　5

・那岐山・後山　6

・安駄山・高鉢山南峰　9

・東赤石～二ツ岳　11

・市間山～立岩山　13

・大峰山・釈迦岳・大台ケ原　15

・野貝原～極楽寺　20

・吾妻山～比婆山～立烏帽子山　22

○ 山の愉しみ　24

● **バリエーション通信**　25

● **2015 年度 第3回運営委員会議事録**　26

● **定例集会の報告（議事録）**　30

● **行事予定**　31

山行案内

７月例会ハイキング山行

周防大島★嵩山～文殊山　縦走

【期　　日】７月２日（土）　　【山　　域】柳井
【集合場所】JR 宮内串戸駅　　【集合時間】７時３０分
【交通手段】自家用車　　【参加費用】会規定に準拠
【行　　程】宮内串戸駅 7:35→嵩山②Ｐ(ふれあいの小径)10:00→嘉納山頂 11:10→　文殊山頂（昼食）12:10～13:10→嘉納山頂 14:00→嵩山山頂 15:20～15:50→嵩山②Ｐ16:00→宮内串戸駅 18:30
【装　　備】ハイキングに適した服装（暑さ対策も）飲水、昼食・非常食、雨具、地図、ヘッドランプ
【地　　図】 1/25,000　周防大島
【リーダー】　　【申 込 先】
【申込期限】**６月２２ 日**まで
【山行の呼びかけ】この時期、晴れると瀬戸内の海は澄み渡り四国や中国山地の山、瀬戸内の島々が見渡せます。コースは雑木林でよく整備され、日陰が多くまた、山野草も多く植物好きの人にもお勧めです。気象条件が合えば嵩山（ﾀﾞｹｻﾝ）山頂で休憩＆パラグライダー見学が可能かも。

８月例会山行　聖岳（3013m）～赤石岳（3120m）～東岳（3033m）

【期　　日】２０１６年８月１日（月）～５日（金）　　【山　　域】南アルプス
【集合場所】JR 広島駅　　【集合時間】５時５０分
【交通手段】公共交通機関　　【参加費用】実費
【行　　程】 8/1　宮内串戸駅 5:18→広島駅 6:00→静岡駅 9:50→畑薙 14:30→椹島 15:30
8/2　椹島 7:00→聖平小屋 13:05
8/3　聖平小屋 7:00→聖岳 9:55→大沢岳 15:30→百間洞山の家 16:40
8/4　百間洞山の家 5:30→赤石岳 9:15→東岳（悪沢岳）15:00→千枚小屋 16:35
8/5　千枚小屋 7:00→椹島 10:55→静岡 18:11→広島 22:51→宮内串戸 23:13
【装　　備】3000m峰縦走に適した服装、着替え、昼食、非常食、雨具、地図、ヘッドランプ、サングラス
【地　　図】 1/25,000　赤石岳
【リーダー】　　【申 込 先】
【申込期限】**７月３０日**まで
【山行の呼びかけ】暑い夏、南アルプスの３０００m峰を縦走しましょう。涼しさの中、素晴らしい稜線歩きが楽しめます。

7月例会山行　白山　（御前峰）

【期　　日】２０１６年７月１５日（金）～７月２０日（水）
【リーダー】
【申 込 先】
【申込期限】４月２８日（木曜日）

期限終了につき
締め切りました

日本気象協会

「tenki.jp」http://www.tenki.jp/long/three_month/
3か月予報　より

予想される向こう3ヶ月の天候(2016年06月～)
平均気温は、北・東日本で平年並または高い確率ともに40%、西日本で高い確率50%、沖縄・奄美で高い確率60%です。降水量は、北・東・西日本で平年並または多い確率ともに40%です。

6月

北日本と東日本日本海側では、期間の前半は天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。東日本太平洋側、西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

7月

北・東日本では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。西日本では、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

8月

北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう3ヶ月の確率(%)　■平年より低い　■平年並　■平年より高い

気温

		平年より低い	平年並	平年より高い
北日本	6月	20%	40%	40%
	7月	30%	40%	30%
	8月	30%	30%	40%
東日本	6月	20%	40%	40%
	7月	30%	40%	30%
	8月	20%	40%	40%
西日本	6月	20%	40%	40%
	7月	30%	40%	30%
	8月	20%	30%	50%

山行報告

４月　ハイキング定例会

船通山(1142m)

【日　時】４月２９日（金、祝日）
【参加者】

【コースタイム】ＪＲ宮内串戸駅（７：５０）→宮島ＩＣ→庄原ＩＣ→斐乃上温泉Ｐ（１０；２５）→シャトルバス→鳥上滝登山口（１０：４０）→鳥上滝（１１：１０）→船通山（１１：５５昼食～１２：５５）→イチイの巨木→亀石コース登山口（１４：３０）→シャトルバス→斐乃上温泉Ｐ（１４：５０）入浴→ＪＲ宮内串戸駅（１８：３０）

１０：２５　奥出雲は生憎の曇り空でしたが、斐乃上温泉Ｐは大型連休初日と、カタクリの花の見頃を迎えすでに満車。空きを見つけて駐車するや否や「登山口までシャトルバスが出ます」の声。ラッキー！徒歩で４０分の距離を５分で到着。幸先の良いスタートです

１０：４０　沢に沿っての急な登りだが可憐な山野草を眺めたり写真に撮ったりしていると遊歩道にロープを張ったカタクリの群生地が現れた。紫がかった清楚で可憐なフラワーロードを登るとパァーッと視界が開け頂上到着。

１１：５５　船通山頂上「オー！素晴らしい！！」３６０°の大パノラマと一面のカタクリの花に大感動。つぼみが多く台地一面が紫の絨毯を敷き積めた様な美しさに見とれてしまった。昼食は冷たい風と多くの登山者を避け稜線広場に移動して頂く。

１３：１５　イチイの巨木（Ｓ３２国の天然記念物指定）は樹齢１０００年を超えた今も風雪に耐え活き活きと繁り生命力の強さは見る人に力を与えてくれる存在です。下山（亀石コース）は若葉眩しい遊歩道を山野草を眺

めながらゆっくり歩いているとツクバネ草の５枚葉が目に留まった。山の案内人に聞くと珍種とか。幸運。

１４：３０　亀石コース登山口無事下山。今日はタイミング良く往復シャトルバスで時間短縮出来た為ゆっくり山野草を眺めたり、花の名前を覚えたり読図の勉強の時間が取れ充実した一日でした。下山後は斐乃上温泉の柔らかい湯に浸かり、アー幸せ☆

５月ハイキング定例会

那岐山･後山

【期　日】５月７日～８日
【参加者】

1日目 5月7日(土)　　那岐山

【コース・タイム】7:05 宮内串戸→7:15 宮島 IC→10:16 津山→11:05 那岐山登山口 11:15→12:00 馬乃背小屋→12:50 稜線のトイレ小屋→13:00 山頂手前小屋(昼食)13:30→13:35 那岐山山頂 13:45→15:00 林道 -15:15 駐車場→17:00 後山キャンプ場

心配だったお天気が直前で運良く好天に変わり、シャクナゲと山菜を期待して８名で賑やかに行って参りました！

本日は早速シャクナゲの峰のある那岐山。登山口も登山道もよく整備されており、新緑の美しさはもちろん、苔むす沢もこれまた美しい。満開は過ぎたようだがシャクナゲもちらほら残っている。ちなみに本日もサブちゃん博士（藤井氏）に虫やら草花やらを解説して頂き皆でフムフムと頷きながら登ってはいるが、実は皆、目で必死にコシアブラなど今晩のおかずを探している。

登山開始から１時間弱で泊まりたくなるくらいきれいな馬ノ背小屋を通過し、それからまた１時間弱でひたすら続いたように思える急坂も越え、フウ。やっと稜線へ(；´Д｀)

稜線にでてすぐに立派なトイレがある。なんて完備された山なんでしょう。稜線から先

に山頂は見えており、あと１５分程度で山頂には着きそうだが、お腹もすいたし山頂手前にあるコンクリ造りの頑丈そうな小屋で昼食とする。この小屋、うーん、ちょっと薄暗いしカビ臭い。食べたら早く山頂に行きましょうぜ。凹

その後コンクリ小屋から山頂にはものの５分で到着。登山口から山頂は約２時間ということになる。下りは１時間半程度かな。下りながらわたしがずっと思っていたこと。立派な小屋もトイレもあるしコース的にも雪山にもってこいではないか、是非冬に来たいなぁ。そんな余韻を個人的には残してもらえた良い山でした。

さてさて、結局本日のおかずは少ししか取れなかったので、偶然見つけた道の駅と商店でお調子にのって大量に山菜と食材を買い込み、急遽天ぷら大会となりました。

今晩の寝床、後山キャンプ場はこれまた立派で、しかも人が全くおらず貸切状態。テント張りを男性陣４名に任せて、わたしとキッシーは夕飯作り。山菜やら大量に買いすぎて、２人天ぷら工場と化していました。ときどき気まぐれに手伝いにくる男性陣が不器用でそ

してほんまに気まぐれでかわいらしい。（笑）

さあ、職人技を極めそうなくらい天ぷら揚げたぜ、みんなお待たせ、乾杯、いただきまぁす♪

うっほ、コシアブラはやっぱり美味い！けどウドの太い茎もホクホクで最高！キッシーが教えてくれて道中で採った藤の花も甘くて美味しい！

あーお腹いっぱい、ほろ酔い、そして何故だかやけに風がビュービュー。

寒いので早めに片付けてテントへいそいそ。すでに寝袋潜り組と、出羽宴会部長率いるまだまだ飲みたい組にテント分け。皆が寝袋に収まった頃ようやく風が止んだと思いきや、夜明け近くまで鹿の鳴き声が響いた夜でした。

（記　森崎）

２日目　５月８日　　舟木山（1334m）・後山（1345m）

【コース・タイム】後山キャンプ場 6:30…バリエーション（Ｖ）コース…正規コースに合流 7:35…尾根 8:15…駒の尾・後山分岐 8:45…舟木山山頂 8:45～8:57…後山山頂 9:22～35…舟木山山頂 9:53～10:47…駒の尾・後山・尾根分岐 10:50…尾根・キャンプ場分岐 11:13…Ｖ・正規コース分岐 11:58…正規登山道登山口 11:43…後山キャンプ場 12:06

【舟木・後山の紹介】
　後山（うしろやま）は兵庫県と岡山県にまたがる標高 1345mの山。中国山地東部にあたり、氷ノ山後山那岐山国定公園の主要な一部。岡山県の最高峰、兵庫県では氷ノ山、三室山に続く三等三角点のある山。後山を東南位に舟木山・鍋ヶ谷山・駒の尾山・ダルガ峰と次第に北西に高度を下げながら続く稜線。この地域で最も高い山の一つで展望は優れている。

　設備の整った広い貸切状態の後山キャンプ場。耳元でさえずる野鳥の声に心地よいサバイバルな目覚め。気温は８℃標高７３０ｍの朝は寒い。震えながら簡単な朝食を済ませ６時３０分キャンプ場すぐ横の正規ルートではなくＶコースを取る。

　那岐山の疲れと一歩目からの急階段でエンジンは即ヒート。路肩に咲くウワズミザクラの満開の花が朝日に映える姿にギヤを入れ直す。ヒノキの綺麗に枝打ちされた林を抜け、標高を稼ぐと芽吹き始めたブナの明るい樹林帯に入る。地図とコンパスを頼りに薄い踏み跡をたどる。やがて踏み跡もなくなり深く積もった落葉や浮石に足をすくわれながら時には岩をよじ登り、急降下、仰ぎ見るほどの滝に出くわし、沢を横切り、迷い道を引き返してのアクロバットに富んだ面白いコース。ピンクのテープに出会い正規コースに入る。

クマ注意の看板を横目に沢をジグザグに登り詰め、天を突くような急登の杉林をヒーフーヒーフー遅れをとるまいと先を攻めるが心と気力の合間に、節分でどうしても追い出せなかった鬼一匹。我思いに邪魔をする。ようやくの思いで尾根筋にでた。これで少しは楽にと思いきや杉林の見通しのきく根階段の直登の３０分は長かった。

尾根からようやく展望のきく県境稜線の尾根に出る。笹とブナ林が続く稜線を後山方面に向かうとすぐに標識がないと通過しそうな舟木山。少し下って登り詰めると山頂に小さな祠が祭ってある後山山頂。9時２２分到着。山頂からは岡山県東栗倉村の集落や氷ノ山・駒の尾山のほか名も知らぬ山が峰を連ねる。展望を楽しみ舟木山に引き返し少し早い昼食タイム。若き男女のハイカーに出会い一杯のコーヒーを飲んでもらい老若のひと時の花が咲く。

帰りはＶコースを避け正規の後山キャンプ場登山口へ下山した。テントをしまい１２時３５分キャンプ場を後に一路あわくら温泉に直行。山の疲れを温泉で。これからまた長い道中運転手の皆さんご苦労さまでした。

記録:浅井田

安駄山(735.3m)・高鉢山南峰(726m)

【日　時】５月１日　晴れ

【参加者】

【コース・タイム】JR 芸備線上三田駅 9:00…白木大橋 9:31…若宮神社 9:37…安駄山登山口 10:02…安駄･高鉢稜線 11:17…安駄山山頂 11:45…中三田分岐 12:10…746 ピーク(昼食)12:40～13:20…高鉢槍 13:53……狩留家駅分岐 14:32…高鉢山三角点 14:39…志和・湯坂峠分岐 14:43…高鉢山頂（マイクロウエーブ反射板有り）14:51…志和・湯坂峠へ下山開始 15:18…志和・湯坂峠 15:42…山豪石 15:57…小河原・狩留家分岐 16:20…水車小屋 16:20…JR 芸備線狩留家駅 17:01

今日はうっとうしい日々の続くつかの間の晴天、長い列車の中ほどあたりの芸備線列車に陣取った。

山行姿の乗客がやたら多い。白木山駅に着くと車内はガラガラ、列車の後の景色が見える。いつの間にか最後尾になっていた。上三

田駅に寂しく下車４人。最初に目指す安駄山が三條川向うにそびえたつ。

地図を頼りに白木大橋を渡り車が行きかうＲ３７を避け若宮神社から村道に入る。神社から３０分大きく右にカーブしているところに安駄山登山口の小さな標識が。標識に従い榎木川沿いの未舗装林道を登ると林道終点の登山口標識がある。登山道がわかりにくいがここの左斜面を４分くらい登ると腐りかけた木橋。渡れるような橋ではない。水量が多いと渡るのに苦労するだろう。薄暗い。山火事注意の看板を見るころには両山肌が押し迫った苔むしたゴロ石が続く。急登で足元を気にしながら、花もない萌ゆる景色も遠景もない、あるのは横たわる倒木と行けど変わらぬ雑木のみ。ただひたすらかすかに残る荒れ道を古びたテープを頼りに歩く修行道。やがて谷から離れ杉林の急登をジグザグに登り詰め稜線にでる。ここは四差路鞍部で南は志和口に下る、東西の稜線で東は緩やかに登る前安駄山方面、西はこれから行く安駄山方面である。ここもまた鬱蒼とした茂みの中。

稜線なのでのんびり尾根歩きと思いきや念仏の甲斐もなく今までとは更にきつい地獄の釜登りが待っていた。登りが穏やかになり小さなピークを過ぎると安駄山。３等三角点と登頂記念板があるだけのまったく展望のきかない寂しい山頂。計画より１時間１５分遅れ。集合写真を撮ってそそくさと次を目指す。

ここからは枯れ葉のつまった急斜面を直下降、平坦になると中三田への分岐のある５６４ｍ鞍部で山頂より２５分。鞍部を過ぎると倒木が多くなり小ピークをいくつか越え、なだらかな７４９ｍピークに達した。すでに１２時４０分予定より１時間３０分の延着のため長者山までをこの時点で断念し、高鉢山から下山することを決断、ゆっくり昼食タイムをとることにした。

あたりは木漏れ日のさすだだっ広い平坦地だが見晴らしはない。広い尾根を地図とテープをさがしながら踏み跡のはっきりしないルートを進み、急登を１０分で今回初めての３

登山

尾根に出る前

安駄山山頂

倒木の多い悪路

志和･湯坂峠

高鉢山山頂

高鉢山反射板

志和峠道の補助ロープ

６０度展望地７６３ｍの高鉢槍に到着。後方の安駄山、彼方に鷹ノ巣山、西方に白木山、南東には高鉢山、長者山もみえる。一服して雑木林の小ピークを幾つか超えて４０分で狩留家駅への分岐に達し、７分で三角点のある高鉢山（７０５．４ｍ）に着く。すこし進むと杉の人工林に入り志和・湯坂峠の分岐表示が眼に入る。(以前はこの分岐を探すのに苦労したとか)この分岐から８分で高鉢山南峰(７２６ｍ）に到着。ここにはマイクロウエーブの反射板があり、しばらく休憩。

南峰から直接志和・湯坂峠へ下るがテープ表示が消え引き返す場面もあったが、急坂にはロープも設置され湯坂峠の車道に２４分で到着。田園の広がる部落は豪勢な民家が点在。獣網が張り巡らせてある。鹿害を防ぐためでこの地区は人より鹿の方が多いとのこと。峠から１時間２０分狩留家駅到着。３０分の待ち合わせ。駅周辺にはジュース類の自販機はあるが酒類の自販機はない。参考までに。

広島からは満員のカープ電車で帰ってきた。やまぼうしの皿家さんお疲れさまでした。

歩行距離:１８．６ｋｍ　歩行時間:８時間　総標高差:２４６６ｍでした。　記録:浅井田

ヴァリエーション定例　「根子岳」代替

東赤石～二ツ岳

【期　日】５月１４日～１５日

【参加者】

【コース・タイム】4:00 起床…5:15 赤石山荘出発…5:50 東赤石山山頂…6:00 東赤石山三角点…6:55 権現越…7:25 権現山…8:35 黒岳…9:45 エビラ山…11:40 二ツ岳…12:15 鯛の頭…12:50 峨蔵越…13:50 肉淵(車回送)…15:30 マイントピア別子(入浴)…18:45 小谷 SA(解散)

5月15日　天気 微妙

朝４時起き。昨日小屋のご主人に４時起床を伝えたらキッチリ４時に電気付けられたので起きないわけにはいかない。昨夜はいつもの楽しい宴会と、皆で星空をうっとり眺め星を語らうという、似合わずロマンティックな夜だったが、消灯後はカビ臭&湿気重のお布団に夢の中でうなされた。広島労山の宮本会長のアドバイス通りインナーシュラフかシュラフカバー必須。それでも 2000 円で屋根の下布団も電気もトイレもある、美味しい水もある、ご主人も不器用そうだがいい人そうだったし、それだけでも有り難や。この小屋は携帯が圏外なので本日のお天気がチェックできず気にはなるが、今のところまずまずの空模様、各自朝食を済ませ５時過ぎ出発！

東赤石までの道のりは、ケボノツツジに囲まれ、遠くには瓶ヶ森、笹ヶ峰、伊予富士、そして石鎚山までも見える、なんとも気持ちの良い出だしだ。４５分程で到着した東赤石山山頂は満開のアケボノツツジがお出迎え。あーええとこやーー(´▽`)ノ♪、と下山できればよいのだが、これからが長い。。先を急ぎます。その名の通り赤い岩たちがゴロゴロの稜線からの景色がなんとも最高！個人的に四国の山にはいつも、日本アルプスやはたまた外国にいるようなハッとさせられるような不思議な感覚にさせられる。昨日の八巻山には外国を思わされ、今この稜線では日本アルプスを思い出させられる。そんな満悦感に浸りつつ５分ばかり歩くとアレ？東赤石三角点がある。山頂どっちやねん！？まぁ、いい、先を急ぎます。ここから権現山までの道のりが見えるのだが、権現山山頂までに権現岳越という中間地点まで一旦一気に下らないといけない。名の通りの赤い岩たちをエッサホイサと下る。風が少し強めではあるがまだお天

気は安定している。ここで雨風が強くなれば危険というよりは行く気もおきないだろうなぁ。権現越まで下るとその分また登ります。これがまた予想以上に手強い笹漕ぎ。わたしの背丈くらいあるので、会長は先頭をスイスイ泳いで行く中、わたしは顔を笹に叩かれながら溺れるように進むしかない。権現山手前「崩壊あり危険」のザレ場(そんなに大した崩

壊はなさそうだったけど？)を登り、東赤石から１時間半後に権現山到着、あー、しんど！！なのに、これからが長いんです。しかもお天気も急に崩れ出して、あたりは霧で真っ白。しばらくすると雨というか、霧の水分が木から露となって降ってくるので雨具を装着、霧の中ひたすら岩と藪のミックスをちょこちょこ登ったり下ったり、道を間違えて進んでは戻ったり、権現山？黒岳？エビラ山？二ツ岳はそんな３時間、アケボノツツジとシャクナゲの両咲きに癒され励まされながら頑張った３時間でした(；´Д｀)

下山道もロープやらハシゴやらてんこ盛りで、皆であと１時間、あと３０分、あと何分と膝も心もボロボロになりながらなんとか下山。さっさと車を回送、マイントピア別子で湯に浸かる。

皆さま、本当によくがんばりました、お疲れさまでした。

最後に個人的な思いではありますが、今回久々の長歩きで不安だったのですが、予想通りのしんどさと同時に、期待以上の山頂や稜線からの景色と美しいアケボノツツジやシャクナゲやたくさんの花々や新緑に出会え、改めて山歩きの楽しさの原点を思い出させてもらえたような気がしました。会長、土屋ＣＬ、メンバーの皆さまありがとうございました。

(記:森崎)

山域研究②

市間山～立岩山

【期　日】５月２２日（日）

【参加者】

【コース・タイム】市間山登山口 9:10→市間山山頂 9：55＝10：00→立岩山 10：55＝11：05→立岩稜線分岐 11:35＝昼食＝12:10→日の平山 12:30→982 ピーク 13:05→下山 13:50

何年ぶりだろう、市間山に立岩山。あの時は、見事な紅葉の時期にもかかわらず、登山道では誰にも会わず、静かな山域であった記憶がかすかに残っていた。新緑の時期に訪れるのは初めてであり、また違った表情に出会えると思うと胸の鼓動が高まった。

登山口をほぼ定刻に出発し、エンジンがかかる前の体には厳しい急登をしばらく登る。最近は、エンジンのかかりが悪く、歳をとったと感じる今日この頃である。登山道を境に人工林と自然林が綺麗に分かれており、整備された登山道は歩きやすく、言うなればまさに高速道路である。急登が終わるとなだらかな道のりとなり、４０人程度の団体を追い抜き、呼吸も落ち着き始めた頃、市間山山頂に到着した。

少しの休憩ののち、立岩山に向けて歩き出す。アップダウンの少ない登山道を歩いていると、市間山と立岩山間のなだらかな稜線歩きで、なんとも言えない心地良さを味わった記憶が一瞬にして蘇った。ひんやりとした空気の中、新緑のヒカリに染まった登山道を歩く。なんとも言えない心地良さに酔いしれた。これだから山は辞められない。山登りは本当に小さな・小さな幸せを拾いにいっているだけなのかもしれない。鳥の鳴き声、木々の間を駆け抜ける風の音、そして自分の呼吸する音のみが響き渡るブナ・ミズナラの森の中。少しだけ立ち止まり呼吸を整えると突然やってくる静寂。その耳鳴りがするくらいの静寂に身を委ねていると、遠くでハルゼミが鳴きだした。

立岩山にはあっけなく到着したが、ここで記憶違いが現れる。国土地理院の地図に記載の立岩山が立岩山だと思っていたが、１１３４．９ｍ三角点ピークが立岩山であるとのこと。だから、あっけな感が非常に強かったのである。地図に記載の立岩山は、日の平山というらしい。山頂は、今日唯一の展望地。立岩ダムを見下ろし、正面に十方山が見える。しかし山頂は狭く、昼食場所には適さないので先へ進む。羽化中のオオミズアオに出くわし、サラサドウダンなどの花を愛でながら進むと立岩稜線分岐に到着し、ここで昼食とした。

昼食後、日の平山を目指す。若干歩き難さはあるが、道は明確である。日の平山から先は一般登山者は通らない境界線の道で、コンパスと地図を頼りに進むことになる。しかし、足を踏み入れてみると、比較的新しい赤いテ

ープの目印が数多くあることから、気落ちしてしまう。また、境界線上には地籍調査済の鋲が設置してあり、これも目印となる。帰って廿日市市のＨＰを調べてみると９８２ｍピークまでは地籍調査が済んでおり、その調査のために赤いテープの目印が多くあったのかもしれない。確かに９８２ｍピークから下山口までは、済鋲もなく、赤いテープも少なかった。

９８２ｍピークから下山口までは、ひとつ間違えば、転び落ちてしまいそうな傾斜をひたすら下る。あまりにも長い道のりであるため、途中休憩を入れる。結局、下山口の国道１８６号線に出るまできつい傾斜を下った。

下山口には、夏の日差しが待っていた。遠くにハルゼミの鳴き声も聞こえ、夏の訪れを感じた。子どもの頃、夏の訪れを感じると同時にやってきてたあのワクワク感。久しぶり

に味わうあのワクワク感を抱きながら、今年もまた暑くなるのかなぁと心の中でつぶやき、停めている車へと向かった。（記録　松岡）

個人山行

大峰山･釈迦岳･大台ケ原

【期　日】５月２２日～２６日
【参加者】

この度は近畿地方最高峰、１００名山の一つそして日本霊山の一つでもある大峰山(八経ヶ岳)と、その近辺の釈迦岳、大台ケ原へと山旅をしてきました(´ ▽ `)ノ

山だけでなく豪華温泉ホテルに泊まって飛鳥村の遺跡や、吉野観光なんぞもしてしまい満喫♪

5月22日

7:30 宮内串戸 － 15:30 頃 吊り橋観光からの谷瀬つり橋オートキャンプ場（コテージ泊）

5月23日　釈迦岳 1800m・大日岳 1568m・蘇獏岳 1521m

【コース・タイム】4:30 起床 － 6:00 キャンプ場出発 － 6:40 太尾登山口 7:10 － 7:53 不動木屋谷分岐 － 8:20 古田の森 － 9:10 釈迦岳山頂 9:30 － 10:10 深山宿 － 10:30 分岐 － 10:53 蘇獏岳山頂 －11:10 分岐戻り －11:25 大日岳山頂 －11:45 分岐戻り －14:30 太尾登山口 －16:00 オートキャンプとちお（コテージ泊）

大日岳

八経ヶ岳

大台ケ原 大蛇ぐらより

今回の山旅の第１の山は釈迦岳。既に山の中ではあるがキャンプ場から車で更に山奥へと、ぐねぐね狭い山道をツッチーの華麗なドライビングテクニックで登山口へ。先着の何台か車があり、そのうちのお一人とご挨拶すると、その方は地元の方でかなりの釈迦岳通ときた。白いツツジのシロヤシオ、アケボノツツジにシャクナゲと花の見どころスポットなど色々と情報を頂いた。登山開始から間も無くシロヤシオの満開に早くもうっとり、写真をパシャパシャ。そんな私達に先程のおじさまが「このくらいで感動しちゃダメですよ、これから先はもっと咲いてますよ」と笑われる。

分岐を過ぎたくらいから足元には背の低い笹とバイケイソウが場所とりをし合うかのように一面を覆っている。バイケイソウがこんなに群生しているのは初めてみた。釈迦岳までは道がよく整備されているし、緩い登りが続くだけだし、まさに花見トレッキング。鹿さんに出会い、水場で美味しい水を頂き、２時間後いつの間にか着いた感じで釈迦岳山頂到着。観音様がお出迎え。快晴の中、360 度の景色を眺められる事に。有り難やと手を合わせお礼を言う。

明日登る大峰の八経ヶ岳と弥山が目の前だ。ここから縦走もできるが車の回送が必要なこともあり我々は今日と明日で分けた。それにしても虫が多い。行動食軽くとり次の大日岳へと急ぐ。相変わらずの低い笹とシロヤシオに加え、アケボノツツジが現れだした。ここのアケボノツツジは四国や九州のうっすらピンク色と違い、とても濃いピンクでこれはこれでまた美しい。先を進むにつれ次第に見えだす岩場にこの濃いピンクが見事に映える。

深山宿という神社と避難小屋のある鞍部に着き小休止。ここから岩だらけの大日岳はすぐ目の前だが、地元のおじさま情報によると、大日岳手間分岐から右に蘇摸岳方面に行くと更に更に花が咲き乱れているというのでそちらに向かう。シロヤシオ、アケボノツツジに加え、やっとシャクナゲが登場。三大スターに揃って会えて本当に感激。来てよかったぁヽ(；▽；)ノ　おっと、大日岳の事忘れてた。来た道を分岐まで戻り辿りついた大日岳は岩がゴロゴロ、鎖がタラリ、危険看板案内あり。もちろん巻き道は右にある。それでもなんだか楽しそうね♪ということで原田さん以外は岩越えで山頂へ。

釈迦岳と今まで歩いてきた道のりが全て見える。いい眺め、そしてお腹がすいた。さすがに岩場の先っちょである大日岳山頂は落ちつかないので深山宿まで下り昼食とする。下山は釈迦岳をエスケープできる道がこのあたりにあるのでそちらを選ぶ。多少入り口や途中道が分かりにくくはあったが、登りのときにトラバース後に出る場所を確認していたので問題なかった。その後は登りと同じ道をだらだら下り、最後までシロヤシオに見送られ無事下山。

今日もコテージ泊で自炊のはずだったが皆さんお疲れだったので温泉後、この山奥で唯一存在する居酒屋でワイワイ。いやぁ、酔っ払った、楽しかった☆ これで明日もがんばれる?！

シャクナゲ

アケボノツツジ

シロヤシオ

5月24日　　大峰山 1915m・弥山 1895m

【コース・タイム】5:00 起床→6:30 キャンプ場出発 -7:50 行者還トンネル西口 8:10→9:00 奥駈道出合 9:15→9:35 弁天の森(1600mＰ)→9:55 聖宝の宿跡→10:50 弥山山頂・弥山神社 11:05→11:35 八経ヶ岳 ＜昼食＞12:10→14:45 行者還トンネル西口→17:00 大台ケ原 心・湯治館(宿泊)

オレンジ色のツツジ

サンカヨウ

夜明けとともに起床。今日も見下ろす渓谷が美しい。昨日カワセミも見た。調理器具がなんでも揃ってる有難い環境で快適に朝食の準備と片付けを済ませ、準備は万端。本日も山から山奥へと向かいます。運転はもちろん山専ドライバーのツッチー。

一昨日からあちこちが通行止めで迂回や道迷いには苦しむが、人に尋ねながら、それでも迷いながら、なんとか登山口へ。登山口前に駐車場があるが管理人さんがおり１，０００円徴収される。今日の天気予報は晴れのち曇り。どうかお天気がもちますように！出発！

昨日に比べると比較的傾斜がありフゥフゥだが１時間で鞍部までノンストップで登りきり、その後は弥山手前までだらだら長い緩やかな登り。今日もシロヤシオが満開だが、時折オレンジ色のツツジがありそのコントラストの美しさに目を奪われる。やはり群生しているバイケイソウの道を抜け、弥山手前の木階段の混じった登りへと辿り着く。傾斜がきつくなるが、がんばれ、あとひと息。昨日の釈迦岳もそうだったが、強風による倒木が多い。それに加えてここは鹿の被害による枯れ木の残骸が多い。この後、八経ヶ岳山頂まで枯れ木は増える一方だった。

登り詰めた先の弥山小屋は天皇さまが来られた効果か、まぁなんて立派だこと。事前予約も必要だそうで山小屋ではなく山旅館だ。弥山神社参拝を済ませ、目の前に見える、近そうで遠そうな八経ヶ岳へ進む。コースタイムでは２０分、でも本当かなぁと疑いながら歩くと結構あっという間でコースタイム通りだった。鹿対策のフェンスゲートを何度か通過しながらの道のりだったが、な、なんと、サンカヨウが咲いている！感激！！ヽ(；▽；)ノ

その後辿り着いた八経ヶ岳山頂、個人的にはサンカヨウのせいか山頂の感激が薄かった。

それでも近畿地方最高峰、晴れ女、晴れ男揃いの我々のパワーでお天気はまだまだ良く山頂からの景色を堪能できた。山頂での昼食中に昨日のコテージの冷蔵庫で凍らせたビールを飲もうとした吉岡、土屋、原田の３名は、凍りすぎて溶けておらず飲めないと嘆いていた。ツッチーはビール缶に湯をかけ、原田さんは日なたにビールを置いていた。そこまでしてビールが飲みたいビール好きの気持ちは私には理解できないので横で笑う。結局ビールは溶けなかったようで、山頂出発間際まで「これから弥山まで戻るまでに溶けるかも、弥山小屋で飲もう」と、まだビールに執着していた。

その後弥山小屋に戻り着きトイレから戻った私が耳にしたのは、実はビールは最初から凍っていなかったというオチで、もはや呆れ笑いをするしかない。さぁ、ぬるいビールも飲んだことだし、あとは下山のみ。同じ道を下るが、最後の鞍部からの下りが石がゴロゴロで滑りやすくしんどかった。それでも最後までお天気をキープし快適登山できたことに感謝。下山後はスピード狂の中沢さんの運転で大台ケ原までスリリングなドライブを楽しむ。（汗）

大台ケ原の宿は登山口駐車場にある宿なので質素ではあるが、他の登山客の方々と消灯までワイワイ語り合い楽しい時間を過ごせた。心配なのは明日のお天気。天気予報は雨よりの曇。雨なら中止か、ショートコースのみにするかなど意見がでたが、結局明日の朝判断することにし就寝。

5月25日　大台ケ原 日出ヶ岳

【コース・タイム】6:00 起床→7:50 宿出発→8:30 日出ヶ岳 8:40→9:15 正木ヶ原→9:40 牛石決定原→9:20 尾鷲辻→10:00 大蛇ぐら→10:45 吊り橋→11:15 大台ケ原駐車場→午後飛鳥村観光からのホテル杉の湯（宿泊）

今日は早起きの必要がないのに、何故か皆早起きで本当に困る。１番早起きの吉岡 CL は朝食前に１人で大台ケ原ショートコースを歩いていた。私は、みんな行けばいいのに…と１人布団の中で祈っていた。

朝食を済ませ、さぁ、気になるのはお天気だが、今のところやや雲はあるが明るいし悪くない。雨雲が近づく昼前までに済ませよう、と出発。登山口は宿を出てすぐとなり。お天気の安定しているうちにまず景色が良い日出ヶ岳を目指す。完全完備な遊歩道を進むと、晴れ人間揃いのパワーで雲間から青空が見えてきた。

木階段を登り詰め山頂到着。一昨日歩いてきた釈迦岳、大日岳がよく見える。反対を向くと遠くに富士山、北アルプス、南アルプスが見える、はずなのだが、ちょっと今日は見えないかな。いや、乗鞍岳が見えた気もした。見えたことにしよう。それから背の低い笹（イトザサ、ミヤコザサと呼ばれるらしい）の中の木道をゆるゆると下り歩き、シロヤシオの木陰道を過ぎ、シャクナゲの群生アーチをくぐり歩き、次第にガスもかかり出しいよいよ雨雲接近かという頃に、大蛇ぐらという絶景岩場ポイントに寄り道。その道のりにはアケボノツツジが満開で、辿りついた大蛇ぐらの岩場から見える岸壁もアケボノツツジが華やかに色付けしてくれて本当に絶景だった。

この大台ケ原、短い山歩きの中にいろんな山の顔というか自然の面々を見ることができ、

最終日、豪華温泉ホテルにて

観光場所になるだけのもはあると改めて納得。その後、雨雲から逃げるように駆け足で駐車場まで急ぐが、最後がずっと登りなだけに急ぎたくてもゼェゼェハァハァ…。結局雨は降らず、その後、飛鳥村で遊び歩いても、豪華温泉ホテルに着いて豪華料理と地酒で酔っ払っても、雨は降ることはなかった。ついでに言うと翌日も天気予報では雨にも関わらず、これまた雨は降ることなく吉野観光を満喫。恐るべし晴れ人間揃いパワー。 有難や。

５月２６日 午前中　吉野観光の後、夕方広島着

５月ハイキング　例会山行

里山ロングトレイ

野貝原～極楽寺

【期　日】５月２８日（土）
【参加者】

【行　程】ＪＲ宮内串戸駅（8：30）…明石バス停（8：45）…古代道登山口（9：15）野貝原一等三角点（10：20）…泉小峠（11：20）…ピーク 682 ランチタイム（12：20～12：40）…七曲峠（14：25）…アルカディア分岐峠（15：10）…蛇の池茶屋（15：30～15：50）…極楽寺本堂（16：00）…宮島 SA（17：00）…平良民間登山口（17：20）…JR 廿日市駅（17：40）

本日の天候曇り気温２０°Ｃ風速３ｍ/ｎ予報どうりの天候山行になりました。

今回はロングトレイ、夏場の山行に向けてのトレーニング・鍛錬となる。今の現状脚力

を把握しながら、皆の足を引っ張らないようにとおもいつつさらにはＣＬより注意事項。

ルートは灌木が茂って見にくくさらに毛虫などでかぶれる可能性があるので、長袖シャツや虫よけやかゆみ止め対策。さらにランチタイムは２０分、休息は給水程度の時間でこまめにし、虫よけのためアルコールなどは控えるように。また時間的に予定場所に到着しない場合は、ショートカットして下山の場合があるとの事など把握しながら集合場所に。

ＪＲ宮内串戸駅８：１５分集合

参加の皆様と挨拶いたしまして広電バスに乗車し明石バス停、アスファルトの車道を歩いて 15 分古代登山口（9：10）登山道は迷う事なくしっかりしています。落ち葉が幾重にも重なって心地よい。小枝を踏む音と落ち葉を踏む音が、ガサガサ・ポキポキ・ポキポキ・ガサ、さらに鳥の鳴き声ホォーケキョケキョ・カッコー、カッコーなどすべての音にリズムが音符(^^♪になる。また小雨が落ちてくる木々に草花に色が染まる。淡い緑色さらに空は水色に非現実的な景色やリズム音に癒されます。とおもいつつ、かなり急斜面を２ヶ所踏ん張り、野貝原一等三角点。さらに進入禁止のフェンスがあちらこちらにある「のうが高原」跡地に進み、泉水峠です。

ランチタイムはゴーカートの音を聞きすぎてピーク６８２で１２：２０～１２：４０きっかり２０分ですョ。山本さんよりとても冷えた「びわ」をいただき皆な感激元気出ましたネ。それから稜線上を登り下りを幾度か繰り返して七曲峠さらにアルカディア分岐。蛇の池茶屋でひと休息し、極楽寺本堂に予定どうりに１６：００到着です。

後は宮島ＳＡ登山口から平良民間登山口とＪＲ廿日市駅に１７：４０無事下山いたしました。

＜所感＞２０ｋｍの里山ロングトレイ　登山口から始めのピーク野貝原一等三角点までがペース配分が合わずてこずる。後は稜線上のアップダウン急登は弱冠あるが問題なし。

アルカディア分岐の車道は周りに野イチゴや草花があり楽しめましたが、最後の平良民間登山口からＪＲ廿日市駅までのアスファルトの車道２０分はかなりこたえました。

新会員の山本さん・会員予定の松原さんお疲れさまでした。参加者１０名予定時間内に完歩です。参加者の皆様いろいろとお世話になりましてありがとうございます。

またご一緒に山登り楽しみにしています。

記録　　舞田

個人山行

吾妻山～比婆山～立烏帽子山

【日　時】　５月１９日（木）

【コース・タイム】吾妻山ロッジ１０：１５…１０：５０吾妻山山頂…１１：１２大膳原…１１：５０烏帽子山…１２：０５比婆山御陵１２：３２…１２：５１越原越…１３：１２池の段…１３：３６立烏帽子山…１３：５０立烏帽子駐車場

６月１８日開催予定の安全登山講座「山での突然死を防ぐ」の講師として来広される、野口いづみＤｒ（日本登山医学会理事、日本山岳会理事）の県連歓迎山行の下見に県連理事長及び会長に同行させて頂きました。ウイークデイの朝の通勤ラッシュにかかり、吾妻山ロッジを予定より３０分遅れの出発になりました。この２～３日、夏日が続き暑さの心配もありましたが、やや温度は高いものの薄曇りで歩くにはちょうどいい天気です。ロッジ裏の水芭蕉は花期も過ぎ成長した葉だけで

した。途中ベンチ場から頂上にかけて視界が広がります。足元には、レンゲツツジ、ユキササ、チゴユリ、イワカガミ、コアジサイが咲いていました。吾妻山からは３６０°の眺望です。大膳原に下ります。大膳原の広い笹原からは振り返れば吾妻山、正面には比婆連峰の稜線が望めます。烏帽子山まで登り返し御陵へ。この時期の比婆山の稜線のブナ純林の新緑に目を奪われ、小鳥のさえずりの中ほんとうに気持ちがいいです。

御陵にて交差縦走予定の会長と合流。ここまでのコース、ウイークデイにもかかわらず１０数組のハイカー共すれ違い、人気の山なんだと改めて思いました。天然記念物のイチイの木、枯れかかっているのか、根元を保護し、周りにロープが張られていました。休憩後、車一台のため会長ピストンにて、一緒に越原越からの上り、池の段直下のややガレた登り、ここが一番きついが、池の段に立つと最高の達成感を来るたびに感じさせてくれる所です。

立烏帽子山から駐車場に下山、チョット急ぎ足の下見でした。

山の愉しみ

雨の山の楽しみ

視界が見えない、雨が合羽の隙間から入る、蒸れて暑い、滑る・・・

雨の日の登山はうんざり。

だけど僕は梅雨の時期の雨の山に登るのが好き。

雨には独特な香りがする。言葉では表せないけど、経験した人ならわかるはず。

すっぽりと雨に包まれて歩くのは悪くない。後からその感覚を思い出す。ガスや低気圧と一体となれるから。

道にはアカガエルやヒキガエル。そしてカタツムリ、ナメクジ、サワガニにも会える。紫陽花の花が喜んでいる。

もしあなたの山行の日がこの時期雨になっても、中止にしては駄目。行く先を変更して、そうだな、恐羅漢や台所原を、雨の日の山を歩いてみてはどうでしょう？　ああ、雨の山を歩きたい。

里山ロングトレイル★チャレンジグレード

＜試案＞高見沢

★日帰り★一般登山道の利用★都市部から約20km圏内★公共交通機関利用★

グレード	沿面距離(km)		累積標高(m)
A	15km以上	20km未満	
A+	15km以上	20km未満	4000m以上
B	20km以上	25km未満	
B+	20km以上	25km未満	5000m以上
C	25km以上		

2016/5/17作成

登山道の状況	
◎	良好
○	一部不分明
△	一部ヤブあり

データはGPSログをカシミール3Dで読み込み「測定」したものを使用

コースNO	グレード	山	域	コース概要	道	距離	標高差	GPSログ
001	A	白木山	鬼ヶ城	上三田から白木山･鬼が城を経て狩留家	○	17	2981	有
002	A	安駄山	高鉢山	上三田から安駄･高鉢･湯坂峠を経て狩留家	○	18	2465	有
003	A+	武田山	柚木城	安古市からガガラ山･武田山･大茶臼･柚木城から田方	◎	16	4599	有
004	A+	呉娑々宇	松笠山	海田から岩滝、呉娑々宇を経て馬木、二ヶ城･松笠を経て戸坂	○	19	5762	有
005	B+	前峠山	三つ丸子	大元公園から前峠山を経由して三つ丸子山を往復、大元公園に	○	22	3798	有
006	B	野貝原	極楽寺	明石からのうが高原、泉水峠、七曲峠をぬけて極楽寺、廿日市駅	○	20	3100	有
007	C	八世似山	呉娑々宇	瀬野駅から八世似山、榎ノ山峠、長者山、呉娑々宇、岩滝を経て海田市	○	25	3704	有
008	C	鉾取山	天狗城山	瀬野駅から坂山、鉾取山	◎	28	5732	有

里山LTのススメ

- ✓ 地図を確認。ルート、地形、コースとタイムを予想します。これこそ机上登山の愉しみ。
- ✓ 登山口そして下山してからの交通や時刻表などの資料を拾い集めます。
- ✓ 縦走路にでると一度で何度もピークを踏めます。
- ✓ 知らない田園風景の出会い、ぶらついたりします。
- ✓ 植物を観察しながら、写真を撮りながら途中の単調・退屈気分を凌ぎます。
- ✓ 降り立った街や駅に腰をおろすとき、達成感がジワジワと身体の奥に染み渡ります。
- ✓ 何より帰着後のビールの味は格別です。
- ✓ そして・・・・次は・・・と、地図を探すようになります。

ハイキングにちょっと･ぴりっと･コクを加える里山ロングトレイルへ！！